

世界における点字ブロックの設置状況

東京科学大学 水野 智美

アール医療専門職大学 徳田 克己

I. 問題の所在と目的

世界の中には約 2 億 1700 万人の視覚障害者が存在し、そのうちの 3600 万人は全盲であると試算されている (Bourne RA et al., 2017)。視覚障害者は視覚的な情報を入手することが困難であるため、移動の際に支障が生じることが多い。その中でも、視覚障害者が特に危険を感じる場所は、鉄道駅のプラットフォームや横断歩道、階段である (徳田ら, 1999)。

視覚障害者が安全かつ快適に移動することを支援するための設備として点字ブロックがある (徳田・水野, 2011)。日本では、視覚障害者誘導用ブロック設置指針 (1985) において、点字ブロックとは、「視覚障害者が通常の歩行状態において、主に足の裏の触感覚でその存在及び大まかな形状を確認できるような突起を表面につけたブロックであり、道路及び沿道に関してある程度の情報を持って道路を歩行中の視覚障害者に、より正確な歩行位置と歩行方向を案内するための施設」と定義されている。

点字ブロックは 1967 年に日本の岡山県内にはじめて設置された。これが世界初の点字ブロックである。その後、日本だけでなく世界で広がりを見せるようになった。

これまでに視覚障害者の移動を支援するための設備として、赤外線や電波などによって音声情報を提供するシステムが多数開発されてきた。しかし、それらにはそのシステムを利用できる地域が限られていたり、システムを利用するために必要な機器に互換性がなく、いくつもの機器を持ち

歩かなければならなかったり、システムの設置に莫大な費用がかかったりするなどの問題があった (徳田・水野, 2017)。最近では、GPS や AI を活用したナビゲーションシステムが開発されてきている (中西・内藤・木村・樽谷, 2025 ; 大坪・染川, 2025 ; 村井・巽・徳増, 2025 など)。しかし、限られた屋内空間のみで使用可能なシステムであったり、歩行位置や歩行方向に誤差が生じたり、夜間や雨天時での使用に支障があるなど、開発途中であり、課題がある。そのため、現時点では主に点字ブロックあるいは盲導犬を利用しつつ、補助的にナビゲーションシステムが用いられている状況にある。

点字ブロックは視覚障害者が通常使用している歩行手段をほとんど変更しなくても利用できること、設置にかかる費用がそれほど高くないこと、現時点で開発されているナビゲーションシステムの多くは点字ブロックを利用することを前提としたものであること等から考えても、点字ブロックはなくてはならない存在である。

世界中に広がっている点字ブロックであるが、どの国がどのようにブロックを設置しているのかについてのまとまった資料はまだない。そこで、2026 年 2 月の時点において世界の中で点字ブロックがどの程度、またどのように設置されているのかを明らかにした資料を提供したいと考えた。

II. 方法

筆者らは 2005 年から 2025 年までの間に、130 の国・地域を訪れ、実地調査をしてきた。調査は

鉄道駅、地下鉄、繁華街、観光地を中心に、街の中をくまなく歩きまわり、点字ブロックの設置状況や設置上の課題を確認する「バリア発見型フィールドワーク法」を用いて行った。ただし、2024年以前に調査した国については、すべて Google map、インターネット上に掲載されている写真、動画、街の風景を映したマスメディア等（以下、Google map 等）を用いて、調査時点からの変化の有無を確認した。また、実地調査をしていないが、Google map 等を用いて確認できた 43 の国・地域のブロックの有無や形状について調べた。

Ⅲ. 結果と考察

1. 点字ブロックの設置国

実地調査をした 130 の国・地域のうち調査時に点字ブロックが設置されていることを確認できたのは 83 の国・地域であった。調査時には点字ブロックの設置を確認できなかった 47 の国・地域のうち、その後、Google map 等によって調べたところ、新たに 17 の国・地域で設置されていることを確認した。また、実地調査をしていないが、Google map 等で 43 の国・地域を調べたところ、そのうち 10 の国・地域に設置されていることを確認した。

以上をまとめると、2026 年 2 月現在、110 の国・地域に点字ブロックが設置されていた。表 1 に、点字ブロックの設置状況の一覧を示した。この表には、点字ブロックの有無に加えて、JIS 規格の警告ブロックの有無、JIS 規格の誘導ブロックの有無、独自の形状の警告用ブロックの有無、独自の形状の誘導用ブロックの有無、独自のルールの有無、エスコートゾーンの有無を示した。

ほとんどの先進国には点字ブロックが設置されており、新興国、開発途上国にも広がってきていた。特に新興国、開発途上国では、鉄道が整備される際に駅構内および駅前広場に点字ブロックが設置されるようになってきた。中国、韓国、インドネシア、タイ、マレーシア、ベトナム、台湾、イスラエル、イラン、ブラジル等では、街の広範囲にわたって警告用のブロックと誘導用の

ブロックの両方を設置していた。

2. 点字ブロックの形状

点字ブロックには、視覚障害者に危険や注意を知らせるための警告用のブロックと安全に歩行方向と歩行位置を示すための誘導用のブロック、横断歩道上や踏切内の歩行方向と歩行位置を示すためのエスコートゾーンがある。多くの国・地域が警告用のブロックと誘導用のブロックの両方を設置しているが、警告用のブロックのみを設置している国・地域もある。警告用のブロックのみを設置している国・地域を表 2 に示した。

表 1 より、警告用のブロックは 110 の国・地域が設置していた。JIS 規格の点状の突起（JIS 規格と似た形状を含む；図 1）を用いている国・地域は、107（日本を含む）であった。JIS 規格とは異なる形状の警告用のブロック（図 2, 3, 4）を使用していた国・地域は 36 あり、そのうち 33 の国・地域（表 3）は JIS 規格の警告用のブロックと独自の警告用のブロックの両方を混在させて使用していた。独自の警告用ブロックのみを用いていたのは、スイス、リヒテンシュタイン、ウルグアイの 3 か国であった。

誘導用のブロックは 89 の国・地域に設置されていた。JIS 規格の線上突起（JIS 規格と似た形状を含む；図 5）を用いている国・地域は 83（日本を含む）であった。JIS 規格とは異なる形状の誘導用のブロック（図 6, 7, 8）を使用していた国・地域は 34 あり、そのうち 28 の国・地域（表 4）は JIS 規格の誘導用ブロックと独自の誘導用ブロックの両方が混在していた。独自の誘導用ブロックのみを用いていたのは、フィリピン、ウズベキスタン、スイス、チェコ、フィンランド、USA の 6 か国であった。

横断歩道内の歩行方向を示すブロック（エスコートゾーン）を設けている国は、日本、マレーシア、台湾、オーストリア、スロバキア、セルビア、フランス、ブラジルの 8 の国・地域であった。



図 1. JIS 規格の警告用のブロック（点状突起）

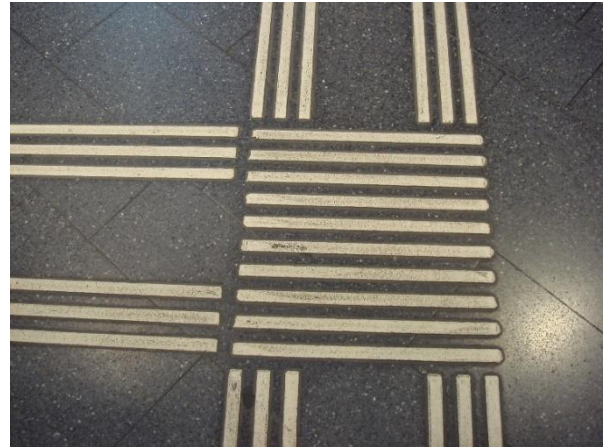


図 4. JIS 規格とは異なる形状の警告用のブロック 3（チューリッヒ・スイス）



図 2. JIS 規格とは異なる形状の警告用のブロック 1（ブリュッセル・ベルギー）



図 5. JIS 規格の誘導用のブロック（線状突起）

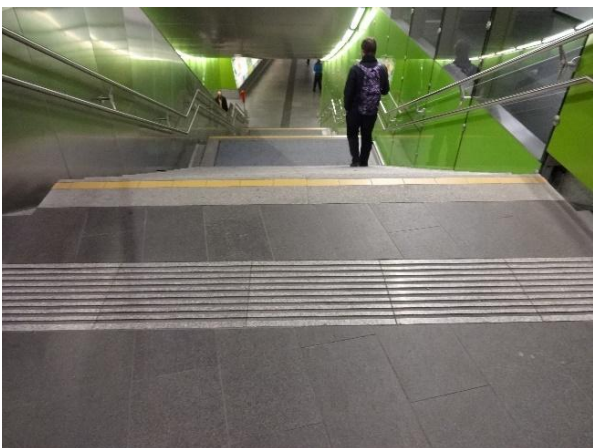


図 3. JIS 規格とは異なる形状の警告用のブロック 2（ウィーン・オーストリア）



図 6. JIS 規格とは異なる形状の誘導用のブロック 1（パリ・フランス）

表 1. 点字ブロックの設置状況

- ①点字ブロックの有無、②JIS規格の警告ブロックの有無、③JIS規格の誘導ブロックの有無、
④独自の形状の警告用ブロックの有無、⑤独自の形状の誘導用ブロックの有無、
⑥独自のルールの有無、⑦エスコートゾーンの有無

名称	英語名称	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
日本	Japan	○	○	○	○	○	○	○
インド	India	○	○	○	×	×	×	×
インドネシア	Indonesia	○	○	○	×	×	×	×
韓国	South Korea	○	○	○	×	○	×	×
カンボジア	Cambodia	○	○	○	×	×	×	×
北朝鮮	North Korea	○	○	○	×	×	×	×
シンガポール	Singapore	○	○	○	×	×	×	×
スリランカ*	Sri Lanka	○	○	○	×	×	×	×
タイ	Thailand	○	○	○	×	×	×	×
中国	China	○	○	○	×	×	×	×
ネパール*	Nepal	○	○	○	×	×	×	×
バングラデシュ*	Bangladesh	○	○	○	×	×	×	×
パキスタン	Pakistan	×	—	—	—	—	—	—
東ティモール	Timor-Leste	×	—	—	—	—	—	—
フィリピン	Philippines	○	○	×	×	○	○	×
ブルネイ	Brunei Darussalam	×	—	—	—	—	—	—
ブータン	Bhutan	×	—	—	—	—	—	—
ベトナム	Vietnam	○	○	○	×	×	×	×
マレーシア	Malaysia	○	○	○	○	○	○	○
ミャンマー	Myanmar	×	—	—	—	—	—	—
モルディブ	Maldives	×	—	—	—	—	—	—
モンゴル	Mongolia	○	○	○	×	×	×	×
ラオス*	Lao P.D.R.	○	○	○	×	×	×	×
台湾	Taiwan	○	○	○	×	×	×	○
香港	Hong Kong	○	○	○	×	×	×	×
マカオ	Macao	○	○	○	×	×	×	×
アルジェリア	Algeria	○	○	×	×	×	×	×
エジプト*	Egypt	○	○	○	×	×	×	×
エチオピア	Ethiopia	○	○	○	×	×	×	×
ガーナ	Ghana	×	—	—	—	—	—	—
ケニア	Kenya	○	○	×	×	×	×	×
ザンビア	Zambia	×	—	—	—	—	—	—
ジンバブエ	Zimbabwe	×	—	—	—	—	—	—
エスワティニ	Eswatini	×	—	—	—	—	—	—

ジブチ**	Djibouti	○	○	×	×	×	×	×
セネガル**	Senegal	○	○	×	×	×	×	×
タンザニア**	United Republic of Tanzania	○	○	○	×	×	×	×
チュニジア	Tunisia	○	○	×	×	×	×	×
トーゴ	Togo	×	—	—	—	—	—	—
ボツワナ	Botswana	×	—	—	—	—	—	—
南アフリカ	South Africa	○	○	○	○	○	○	×
モーリシャス**	Mauritius	○	○	○	×	×	×	×
モロッコ*	Morocco	○	○	×	×	×	×	×
レソト	Lesotho	○	○	×	×	×	×	×
オーストラリア	Australia	○	○	○	×	×	×	×
ニュージーランド	New Zealand	○	○	○	×	×	×	×
パラオ	Palau	×	—	—	—	—	—	—
フィジー	Fiji	○	○	○	×	×	×	×
グアム	Guam	○	○	×	○	×	○	×
サイパン	Saipan	×	—	—	—	—	—	—
アイスランド	Iceland	○	○	○	○	○	○	×
アイルランド	Ireland	○	○	×	○	×	○	×
アゼルバイジャン*	Azerbaijan	○	○	○	×	×	×	×
アルメニア	Armenia	×	—	—	—	—	—	—
アルバニア	Albania	×	—	—	—	—	—	—
アンドラ	Andorra	×	—	—	—	—	—	—
イギリス	United Kingdom	○	○	×	○	×	○	×
イタリア	Italy	○	○	○	○	○	○	×
ウクライナ*	Ukraine	○	○	○	×	×	×	×
ウズベキスタン*	Uzbekistan	○	○	×	×	○	○	×
エストニア*	Estonia	○	○	○	×	×	×	×
オランダ	Netherlands	○	○	○	○	×	○	×
オーストリア	Austria	○	○	○	○	×	○	○
カザフスタン	Kazakhstan	○	○	○	○	○	○	×
北マケドニア*	FYR Macedonia	○	○	○	×	○	○	×
キルギス	Kyrgyz Republic	×	—	—	—	—	—	—
ギリシャ	Greece	○	○	○	○	○	○	×
クロアチア	Croatia	○	○	○	×	×	×	×
コソボ	Kosovo	×	—	—	—	—	—	—
サンマリノ	San Marino	×	—	—	—	—	—	—
ジョージア	Georgia	○	○	×	×	×	×	×

スイス	Switzerland	○	×	×	○	○	○	×
スウェーデン	Sweden	○	○	○	○	○	○	×
スペイン	Spain	○	○	○	○	○	○	×
スロバキア	Slovak Republic	○	○	○	○	×	○	○
スロベニア	Slovenia	○	○	○	×	×	×	×
セルビア	Serbia	○	○	○	○	○	○	○
タジキスタン	Tajikistan	×	—	—	—	—	—	—
チェコ	Czech Republic	○	○	×	○	○	○	×
デンマーク	Denmark	○	○	○	×	○	○	×
ドイツ	Germany	○	○	○	○	×	○	×
トルクメニスタン**	Turkmenistan	○	○	○	×	×	×	×
ノルウェー	Norway	○	○	○	○	○	○	×
ハンガリー	Hungary	○	○	○	○	○	○	×
バチカン	Vatican	×	—	—	—	—	—	—
フィンランド	Finland	○	○	×	○	○	○	×
フランス	France	○	○	○	○	○	○	○
ブルガリア	Bulgaria	○	○	○	×	×	×	×
ベラルーシ	Belarus	○	○	○	×	×	×	×
ベルギー	Belgium	○	○	○	○	×	○	×
ボスニア・ヘルツェ ゴビナ	Bosnia and Herzegovina	×	—	—	—	—	—	—
ポルトガル	Portugal	○	○	×	×	×	×	×
ポーランド	Poland	○	○	○	×	○	○	×
マルタ	Malta	○	○	×	×	×	×	×
モナコ	Monaco	○	○	×	×	×	×	×
モルドバ*	Moldova	○	○	○	×	×	×	×
モンテネグロ*	Montenegro	○	○	○	×	×	×	×
ラトビア*	Latvia	○	○	○	×	○	○	×
リトアニア	Lithuania	○	○	○	×	×	×	×
リヒテンシュタイン	Liechtenstein	○	×	×	○	×	○	×
ルクセンブルク	Luxembourg	○	○	○	○	×	○	×
ルーマニア	Romania	○	○	○	○	○	○	×
ロシア	Russia	○	○	○	○	○	○	×
北キプロス	North Cyprus	×	—	—	—	—	—	—
南キプロス	South Cyprus	○	○	○	×	×	×	×
ジブラルタル	Gibraltar	○	○	×	×	×	×	×
アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	○	○	○	×	×	×	×
イスラエル	Israel	○	○	○	×	×	×	×

イラン	Iran	○	○	○	○	×	○	×
オマーン	Oman	×	—	—	—	—	—	—
カタール	Qatar	○	○	○	×	×	×	×
クウェート	Kuwait	×	—	—	—	—	—	—
サウジアラビア**	Saudi Arabia	○	○	○	×	×	×	×
トルコ	Turkey	○	○	○	○	○	○	×
バーレーン	Bahrain	○	○	×	×	×	×	×
ヨルダン	Jordan	×	—	—	—	—	—	—
レバノン	Lebanese Republic	○	○	×	×	×	×	×
パレスチナ	Palestine	×	—	—	—	—	—	—
アルゼンチン	Argentina	○	○	○	○	○	○	×
ウルグアイ	Uruguay	○	×	×	○	×	○	×
エクアドル	Ecuador	○	○	○	×	○	○	×
エルサルバドル*	El Salvador	○	○	○	×	×	×	×
キューバ	Cuba	×	—	—	—	—	—	—
グアテマラ*	Guatemala	○	○	○	×	×	×	×
コスタリカ	Costa Rica	○	○	○	×	×	×	×
コロンビア	Colombia	○	○	○	×	×	×	×
チリ	Chile	○	○	○	○	○	○	×
パナマ*	Panama	○	○	○	×	○	○	×
バハマ	The Bahamas	○	○	×	×	×	×	×
プエルトリコ	Puerto Rico	○	○	×	×	×	×	×
ブラジル	Brazil	○	○	○	×	○	○	○
ペルー	Peru	○	○	○	×	○	○	×
ホンジュラス	Honduras	×	—	—	—	—	—	—
メキシコ	Mexico	○	○	○	○	○	○	×
アメリカ合衆国	United States	○	○	×	○	○	○	×
カナダ	Canada	○	○	○	○	×	○	×
ドミニカ共和国**	Dominican Republic	○	○	○	×	×	×	×
パラグアイ**	Paraguay	○	○	○	×	×	×	×
ボリビア**	Bolivia	○	○	○	×	×	×	×
ベネズエラ**	Venezuela	○	○	○	×	×	×	×

注) * : 我々の調査後に点字ブロックが設置された国

** : 我々は現地まで調査をしていないが、ブロックが設置されていることを確認した国

表 2. 警告用のブロックのみを使用している 21 の国・地域

Algeria	Guam	Monaco
Kenya	Ireland	Liechtenstein
Tunisia	United Kingdom	Bahrain
Morocco	Georgia	Lebanese Republic
Lesotho	Gibraltar	Uruguay
Senegal	Portugal	The Bahamas
Djibouti	Malta	Puerto Rico

表 3. 日本と同様の形状の警告用ブロックと独自の警告用ブロックの両方を使用している 33 の国・地域

Japan	Greece	Belgium
Malaysia	Sweden	Luxembourg
South Africa	Spain	Romania
Guam	Slovak Republic	Russia
Iceland	Serbia	Iran
Ireland	Czech Republic	Turkey
United Kingdom	Germany	Argentina
Italy	Norway	Chile
Netherlands	Hungary	Mexico
Austria	Finland	United States
Kazakhstan	France	Canada

表 4. 日本と同様の形状の誘導用ブロックと独自の誘導用ブロックの両方を使用している 28 の国・地域

Japan	Serbia	Russia
South Korea	Denmark	Turkey
Malaysia	Norway	Argentina
South Africa	Hungary	Ecuador
Iceland	France	Chile
Italy	Poland	Panama
Kazakhstan	FYR Macedonia	Brazil
Greece	Latvia	Peru
Sweden	Romania	Mexico
Spain		

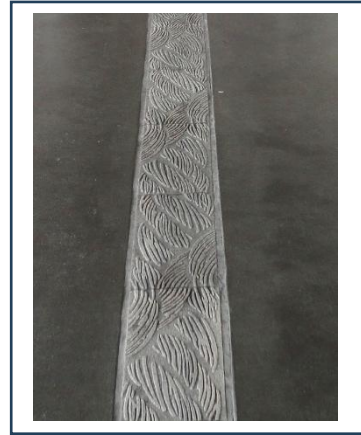


図 7. JIS 規格とは異なる形状の誘導用のブロック 2 (シアトル・USA)

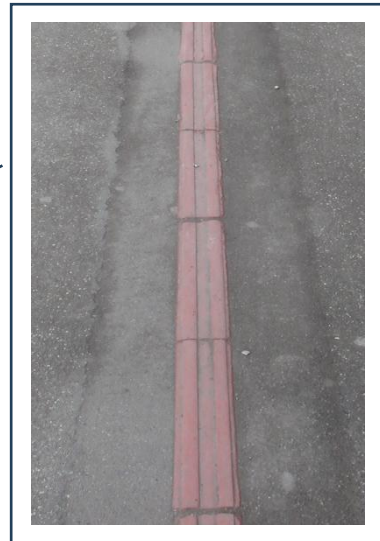


図 8. JIS 規格とは異なる形状の誘導用のブロック 3 (コペンハーゲン・デンマーク)



図 9. エスコートゾーンのための独自の形状のブロック 1 (宮崎・日本)



図 10. エスコートゾーンのための独自の形状の
ブロック 2 (ウィーン・オーストリア)



図 11. 誘導用のブロックと同じ形状のブロックを
使用したエスコートゾーン (クアラルンプール・マ
レーシア)

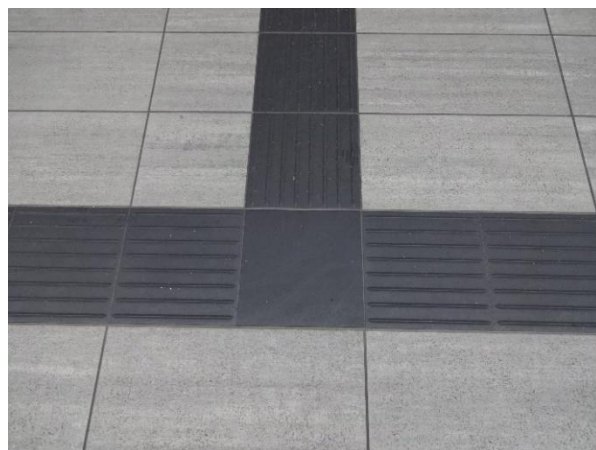


図 12. 誘導用のブロックの交差する部分に警告用のブロックを設置しない独自のルール
(バンクーバー・カナダ)

そのうち、誘導用のブロックや警告用のブロックを代用するのではなく、エスコートゾーンのために独自の形状のブロック（図 9, 10）を使用していたのは、日本、台湾、オーストリア、スロバキア、フランスであった。ただし、日本、マレーシア、スロバキア、フランスでは誘導用のブロックと同じ形状のブロックをエスコートゾーンとして使用している箇所もあった（図 11）。

3. 独自のルール

JIS 規格のブロックを用いているが、それらを独自のルールで設置している国があった。フィリピン、オーストリア、ギリシャ、ルクセンブルク、

トルコ、エクアドルでは、誘導用のブロックを用いずに JIS 規格の点状突起のブロックを警告用のブロックとしてだけでなく、誘導用のブロックとしても使用している地域があった。

オーストリア、フランス、ベルギー、カナダでは、誘導用のブロックが交差する部分に警告用のブロックを設置しないルールを設けている地域があった（図 12）。誘導用のブロックが交差する部分に警告用のブロックが設置されていなければ、視覚障害者にとっては、たまたまその箇所のブロックが破損等の理由で何も設置されていないのかの区別がつかない。

IV. まとめ

2026年2月の時点で、110の国・地域に点字ブロックが設置されており、世界的に普及が進んでいる。しかし、多くの国・地域で、JIS規格のブロックと独自のブロックが併用されていた。ブロックが統一されていなければ、視覚障害者の混乱を招く。視覚障害者の安全な移動を保障するためには、国際的に統一された点字ブロックの整備が喫緊の課題である。

また、エスコートゾーンを設置する国・地域も少しずつ増えつつある。現在、エスコートゾーンに統一された規格はなく、各国が独自に考えたブロックを設置している。誘導用のブロックや警告用のブロックと同じ形状のブロックを使用している国もあれば、独自の形状のブロックと誘導用のブロックと同じ形状のブロックがエスコートゾーンとして混在している国もあった。エスコートゾーンの設置が広がる前に、ブロックの形状、設置の仕方等を整えていくことが喫緊の課題と言える。

引用文献

- Bourne RA., Flaxman SR., Braithwaite T., Cicinelli MV., Das A., Jonas JB., Keeffe J., Kempen J., Leasher J., Limburg H., Naidoo K., Pesudows K., Resnikoff S., Silvester A., Stevens GA, Tahhan N., Wong TY., Taylor Hr. (2017) Magnitude, temporal trends, and projections of the global prevalence of blindness and distance and near vision impairment: A systematic review and meta-analysis, *Lancet Global Health*, 5, e888–e897.
- 村井保之・巽久行・徳増眞司 (2025) AIを用いた視覚障害者向け歩行支援システムの開発: 歩行軌跡に基づく歩行可能領域推定, 第24回情報科学技術フォーラム, 509-510.
- 中西伶奈・内藤拓也・木村駿介・樽谷葵 (2025) 視覚障害者向け移動支援ロボットを用いた展示空間における実証実験, 日本ロボット学会誌, 43 (5), 549-552.

大坪克俊・染川舞 (2025) 視覚障害者の歩行支援システムに関する研究—振動による歩行経路の誘導—, 金城学院大学論業 自然科学編, 21 (2), 1-7.

徳田克己・新井邦二郎・松村みち子・長岡英司・望月珠美 (1999) 『視覚障害者の歩行者としての交通安全ニーズに関する調査研究』, 平成10年度研究プロジェクト研究報告書.

徳田克己・水野智美 (2011) 『点字ブロック—視覚障害者が世界を安全に歩くために—』, 福村出版.

徳田克己・水野智美 (2017) 視覚障害者のための移動支援システムのあり方に関する研究, 実践人間学, 8, 1-4.

日本道路協会 (1985) 『視覚障害者誘導用ブロック設置指針・同解説』, 日本道路協会.

Global Status of Tactile Ground Walking Indicators

This study aimed to clarify the extent to which Tactile Ground Walking Indicators (TGWIs) have been disseminated worldwide and how they have been implemented in different countries and regions. From 2005 to 2025, on-site investigations were conducted in 130 countries and regions using the Barrier-Detection Fieldwork Method. For surveys conducted prior to 2024, the most recent conditions were verified using Google Maps and publicly available photographs.

The findings confirmed the presence of TGWIs in 110 countries and regions as of 2025.

Blocks for warning were identified in all 110 countries and regions, 107 of which employed warning blocks based on the JIS standard. Furthermore, 33 countries and regions exhibited a coexistence of JIS-standard Blocks for Warning and independently designed variants.

Blocks for induction were installed in 89 countries and regions, 83 of which utilized directional blocks conforming to the JIS standard. Additionally, 28 countries and regions used a combination of JIS-standard induction blocks and nonstandard, independently developed designs.

Escort zones were observed in eight countries and regions, five of which used different block configurations than those used for Induction Blocks.